

平成29年度 第2回 練馬区区政改革推進会議

練馬区における文化の現状と課題

平成29年9月26日

練馬区 地域文化部 文化・生涯学習課

- 1 これまでの展開
- 2 文化芸術施策の目指すところ
- 3 現在の取組とこれから
- 4 参考資料

1 これまでの展開

国の動向

都の動向

平成13年

「文化芸術振興基本法」制定

- ・自主的な文化芸術活動の促進
- ・文化芸術活動を官民で総合的に推進

平成19年

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」改正

- ・文化(文化財の保護を除く)及びスポーツ(学校体育を除く)に関することは、首長が管理、執行できることとなる。

平成24年

「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」制定

- ・文化会館、ホール等の設置・運営者、実演団体、国や地方公共団体の役割を明確化
- ・貸館に合わせて実演芸術の振興拠点としての機能を明確化

平成28年

「東京文化ビジョン」発表

- ・都の文化芸術振興基本方針(8つの基本戦略)を掲げる
- ・2020大会に向けた文化プログラムの先導的役割を果たす

平成29年

「文化芸術振興基本法」改正

- ・「文化芸術基本法」に名称変更、「振興」から「推進基本計画」へと具体化する。
- ・観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等関連分野の施策を法律の範囲に取り込み、文化芸術を総合的に推進。
- ・「地方文化芸術推進基本計画」策定を努力義務として規定。

これまでの動向から見た、これからの方向性

文化芸術は観光やまちづくり、教育施策等にかかわり、幅広い分野への効果を視野にした展開が期待されていること。

2020大会に向けた様々な文化イベントの展開により、大会後は我が国の文化芸術が新しい局面を迎えることを想定し、次代につながる文化施策が求められていくこと。

区の計画や執行体制の動き

平成17年「練馬区文化芸術振興条例」制定

平成23年「練馬区文化芸術振興計画」策定

平成24年 文化振興所管を区長部局に統一

平成27年「ビジョン」「アクションプラン」の個別計画

「みどりの風吹く

まちにあ・そ・ぶ 練馬区学びと

文化の推進プラン」策定

2 文化芸術施策の目指すところ



「人はパンのみによって生きるにあらず」

— 「練馬ならではの」の都市文化を楽しめるまちに —

都市の利便性が高いにもかかわらず、みどり豊かな環境の中で、美術館やホール、芸術系大学があり、質の高い文化活動を展開している著名文化人も多く居住しています。区民の多彩な文化活動も活発に行われています。

プロフェッショナルな活動と区民自らが参加する活動がともに楽しめる、そうした「練馬ならではの」の都市文化を花開かせようとしています。

3 現在の取組とこれから

みどりの風吹くまちにあ・そ・ぶ ～学びと文化の推進プラン 平成27～31年度

住んで、学んで飛び出せ
練馬区民パワー

学び、学びあから 区民の力を惹きだす

- じっとしていたらもったいない
「練馬Enカレッジ」の運営
・「ねりまをもっと知ろう」講座等の開講
- つながる、広がる学びの場
生涯学習施設の一体的活用
・向山庭園を含めた生涯学習施設の運営体制の整備
- (仮称)「ねりまアトリエ村アート・ラボ」で発信
若手芸術家とコラボ
・(仮称)「ねりまアトリエ村アート・ラボ」
(区民の文化活動と新進芸術家とのコラボレーション)
- もっと知りたい、伝えたい学びの極意
情報発信の充実
・web版学習・文化ガイドブックの作成
・ホームページコンテンツの整備

ねりまを楽しむ

今はじめよう 生涯輝き
生きがい、充実した暮らしを発信する

- (仮称)「輝くセカンドライフ」
地域活動への関心を高める啓発等の充実
・社会貢献型地域活動啓発イベントの実施
- じっとしていたらもったいない
「練馬Enカレッジ」の運営(再掲)
・練馬Enカレッジ 活動の場へつなぐ「情報センター」

プランを推進し、将来を見据えた
次のアクションにつなげるために

- (仮称)文化戦略ブレイン会議の設置
- (公財)練馬区文化振興協会を活かす
- 大学・関係団体等との連携・協働

学びでチャレンジ！

学び、学びあいを支援し
地域づくりの基盤を強化する

文化芸術で感動！

多彩な文化芸術が織りなす魅力を
磨き上げ 文化力を強くする

学びと文化で
感動！未来！輝く ひと、笑顔のまち

未来を育てる

拠点から広がる文化の風
文化拠点の魅力を上げて、区内外に発信する

未来にステップ・UP
新たな発想で 次代

- はじめの一歩を踏み出し
利用者や時代のニーズを的確に捉えた施設機能の検討
・練馬文化センターのあり方の検討
・適切な維持管理計画の策定

気がつけば笑顔・誇り

ねりまの魅力を探しに行こう

まちが輝くために
文化芸術をクリエイトする

- みどりの中でアートな体験
みどりと文化芸術の連携
・(仮称)「石神井松の風薪能」の開催
- さあ出かけよう練馬の「まち歩き」「ポタリング」
練馬の魅力づくり
・コース上の文化財や史跡説明板のデザイン
リニューアルと新たな設置
- 地域の歴史をひもどく文化遺産
文化遺産をまちづくりに活かす
・歴史文化基本構想の策定
・(仮称)「ねり魅でサインプロデュース」事業の立上げ
- (仮称)「ねりウッド=練馬ハリウッド？」
映像文化が「華」開いた練馬区
・(仮称)「練馬と映画・アニメ文化史」冊子の編集・発行
・練馬ゆかりの漫画家などに関連する美術館での企画事業
・(仮称)「練馬アニメコンペティション」の開催

文化のシャワーを浴びたい

文化がさく裂

身近に参加 身構えずに
気軽に楽しむ機会を創る

- おもしろ公演イベントの充実
子どもの情操・耳を澄ませば音楽が
・練馬文化センターでの参加型公演・ワークショップの
強化
・練馬のまちに音楽が響く「ミュージックタウン練馬宣言」
- さすがにプロは凄い
「ねり文ブランド」への磨き上げ
・芸術監督等の力を活かす
・共通鑑賞券の新規発行(練馬文化センター・美術館・
石神井公園ふるさと文化館等)
・(仮称)「ねりまアトリエ村アート・ラボ」(再掲)
- もっと知りたい、伝えたい文化芸術の感動
情報発信の充実
・web版学習・文化ガイドブックの作成
・ホームページコンテンツの整備

3 - 1 これまでの取組と課題

【特色のない / 当たり障りのない企画】

- ・ 外郭団体は、文化センターを中心とした舞台イベント運営が役割の中心
- ・ 外郭団体は派遣による区職員が中心、企画も担い、専門家がない、育たない
- ・ 区の文化芸術分野の計画は、総花的でどの自治体でも通用する計画
- ・ 文化施策が区長部局と教育委員会に分かれ、それぞれバラバラに展開
- ・ 民間や大学、芸術家に「お金は出すから自由な発想で企画を委ねる」気概がない

【反省】

- ・ 文化芸術は、そもそも自由な発想から素晴らしいものが生まれる、いわゆる「行政の枠」を自ら立てて、創造性の疎外要因となってはいけない
- ・ プロフェッショナルに「任せ」、「意見を聞き」、「担当者も楽しい」企画であれ
- ・ 区が文化芸術施策の方向を明確に示さないと、外郭団体は団体が担うべき役割がぶれていく
- ・ 専門家をスタッフに取り込め、人脈や発想、進め方は一緒に仕事をして自分のものにせよ
- ・ ひと・かね・ものは、重点的に投資して、投資価値を磨き、投資を上回る結果を追求せよ
- ・ 常に「素晴らしい」と思える企画まで高めよ

地方都市と違う、都心部の港区やターミナル駅を有する豊島区などとも違う

「練馬区ならではの」文化施策を展開していくことが、これからの課題

2020年大会後の新たな文化芸術の局面

<国、都道府県、地方自治体、企業、市民の活動が各々の目的を果たすために、総合的に展開されていくことを想定>
<ユニバーサル社会に向けたバリアーを突破する先導的ツールとして、文化芸術の役割が大きくなることを想定>

地方都市

観光客の誘致
地方都市のアイデンティティ発信
コミュニティの醸成による人口流出抑制

都心区

来街者の獲得、経済波及効果を重視
まちのイメージ形成

成熟社会を見据え、住宅都市の魅力向上を目指す

「練馬ならではの」都市文化を花開かせるために、区の特性にさらに磨きをかける独創的な取り組みが必要。これをいかに戦略的に展開していけるかが鍵。

これからの取組みにあたっての大きな課題

区民の活動やまちづくりなどの施策をも取り込んだ戦略的な文化芸術施策の展開が必要。
総花的な取組みではなく、みどりや「区内大学連携」など、区の特性を活かす独創的で発信力があるイベント等の企画を高めていくことが必要。

練馬区の特性・文化資源

みどり豊かなまち(文化とみどりの親和性)

大都市の利便性(都心のホールなどへのアクセスが良い)

音楽家や画家などを多く輩出し、今も多く居住している(23区トップ3・世田谷区、杉並区、練馬区)

文化芸術活動の場が充実

区内に2つものシネコンがある

芸術系大学が2校もある

72万人の住宅地であり区民の生涯学習活動が盛ん、区民の文化的活動の基盤、裾野が広い

3 - 2 新たな方向性

前川区長就任以降、目指すべき文化施策の姿が明確になり、その実現に向けて今までの取組みを見直し、話題性、発信力のある施策を次々に展開中。

【文化振興協会を充実】

- ・ヴァイオリニストの大谷康子さんが文化振興協会の理事長に就任
- ・民間と行政の良さを発揮できる文化振興協会がイベント展開を一元的に担う態勢を構築
- ・文化センターは施設管理と公演の担い手が別だったものを一元化
- ・ホール、美術館、ふるさと文化館が連動した企画の実施

【一流芸術家の参加】

- ・野村万作さん、梅若万三郎さん出演の薪能の開催
- ・大谷康子さんのアイデアにより、著名パティシエとコラボしたスイーツコンサートなど、魅力ある企画をプロデュース
- ・70周年記念コンサートでは大谷康子さんとNHK交響楽団メンバーによる演奏が実現

【質の高い企画をさらに伸ばす美術館】

- ・民間からの館長登用とシスレー展や明日のジョー展などウイングを広げた積極的な企画展の開催
- ・指定管理者制度導入による自由度の高い運営態勢の実現、優秀な学芸員の確保
- ・展示室拡張を計画化

【区民活動を促進】

- ・薪能と同日に「区民コンサート」を開催
- ・70周年記念事業「真夏の第九」を開催
- ・囃子団体や文化団体活動を支援し、「郷土芸能フェスティバル」と「文化芸術の饗宴」が実現

70周年を契機に芽吹いた、質の高い文化芸術イベントを展開

区民から「ぜひ続けてほしい」、「こうした本格的な催しを待っていた」、「練馬らしい練馬でなくては見る事ができなかった」などの感想をいただき、練馬区の文化的イメージが変わるこの機会に、「リーディングイベント」を打ち出していく。

みどりの風 練馬薪能



狂言の人間国宝で、練馬区名誉区民の野村万作さんと息子の萬斎さん、重要無形文化財総合指定保持者の梅若万三郎さんなど日本を代表する演者が競演。かがり火に照らされた幻想的な舞台。



これからの取り組み

美術館をリニューアルし、文化芸術の拠点に相応しい場としていきます

独創的で優れた企画を展開している美術館は、開館から32年が経ち、改修時期を迎えています。改修と併せて、併設の貫井図書館や隣接のサンライフ練馬と一体的にリニューアルし、展示室の拡張などにより今後の活動に相応しい場としていきます。

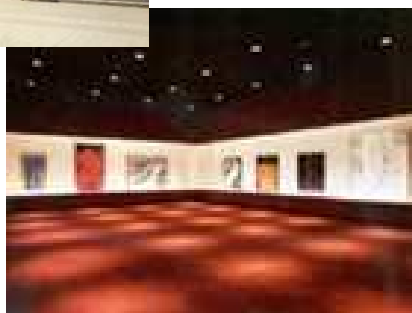
平成28年度 区立美術館魅力向上検討会

サンライフ練馬と建物をつなぐ改修案を検討

→費用と効果を検証、長期的スパンで見れば美術館活動の魅力向上が不十分。

平成29年度～

これからの美術館の役割や活動を含めて議論を重ねるため、引き続き検討。



(今月16日に、天皇陛下、皇后陛下が「藤島武二展」をご観覧)



とぎめきの美 いま 練馬から
練馬区立美術館

区民とともに創る・誰でもが楽しめる 文化芸術の裾野を広げます

区民の文化芸術活動を支援し、盛上げていきます。みどり豊かな72万人の住宅都市の中で、合唱や絵画サークルなどの区民文化活動が盛んです。こうした方々と協働によるイベントを開催していきます。

文化芸術は、国籍や障害、年齢などの違いを超えて、誰でもが楽しめるものです。これからのユニバーサル社会を見据えた取り組みを推進していきます。

みどりの風 区民コンサート

みどりの風 練馬薪能と同日、同会場で開催。
オーケストラや中学校吹奏楽部、お囃子など地元で活躍する団体が出演する野外コンサート。



70周年で「真夏の第九」を区民とともに創る

1,000人以上の公募区民による合唱団と区内交響楽団と区内大学の学生で構成するオーケストラで、ベートーヴェンの交響曲第九番第四楽章「歓喜の歌」を歌う。

Nerimaユニバーサルオーケストラコンサート (ユニバーサルフェス参加イベント)

練馬区の子どもたちが、障害や国籍、年齢差を超えた100人規模のオーケストラと合唱団を編成し、ステージも客席も誰でもが楽しめるコンサートを開催する。



4 参考資料

資料1 練馬区内の主な文化芸術施設(区立・民間)

練馬文化センター



大小2つのホールをはじめ、ギャラリー、集会室などを併設した練馬区の文化発信拠点。コンサートやバレエなどの公演をはじめ、各種講座や後援会、会議・研修などにも利用できる。



万作・萬齋狂言の会

練馬区名誉区民で文化センター名誉館長の野村万作氏と息子・萬齋氏による狂言公演。毎年1回開催。



バックステージツアー

舞台装置や照明・音響など、練馬文化センターの裏側を見学。実際に機材の操作も体験できる。

練馬区立美術館



日本近現代美術を中心に、斬新な視点・切り口で開館以来様々な展覧会を開催。学芸員や作家によるギャラリートークやロビーを利用したコンサートなど多彩な事業を展開する。



あしたのジョー、の時代展
会期：平成26年7月19日～9月21日
入館者数：14,785人（歴代15位）

アルフレッド・シスレー展
- 印象派、空と水辺の風景画家 -
会期：平成27年9月20日～11月15日
入館者数：41,849人（歴代1位）



石神井公園ふるさと文化館



練馬区の歴史や伝統文化、自然などについて、体験しながら楽しく学ぶことができる博物館。創作作品の展示・発表や、様々な文化活動の場としても利用できる。



楽しく学べるように、さわったり、使ったりできるような資料も展示している。

石神井公園ふるさと文化館分室



練馬ゆかりの文化人に関する展示と音楽・音響事業を柱として、さまざまな文芸関係事業を展開。

大泉学園(ゆめりあ)ホール



舞台と観客がひとつの箱のようになっている靴箱型で、楽器の生演奏や肉声に適した音響効果を持つコンパクトなホール。絵画や写真、工芸などの展示ができるギャラリーも併設。

I M Aホール

民



光が丘の大型ショッピングモール内にあるホール。ステージは、様々な用途に応じたヴァリエーションがあり、合唱、バレエ、演劇など目的に合わせてつくる事が可能。

ちひろ美術館・東京

民



画家・いわさきちひろが最後の22年間を過ごし、数々の作品を生み出した自宅兼アトリエ後に建てられた、世界で最初の絵本美術館。いわさきちひろを身近に感じながら作品を楽しむ。

光が丘美術館

民



日本画、陶芸、版画など気鋭あふれる作家たちによる作品や世界に12台しかないグランドピアノも展示している。そのピアノを活用したコンサートの開催や陶芸教室を併設している。

武蔵野音楽大学

民



1929年に創設した日本で初めての音楽大学。世界各地から楽器資料を収集した楽器博物館があり、かつてナポレオン三世が所有したナポレオン帽子型ピアノなど貴重な資料を展示している。

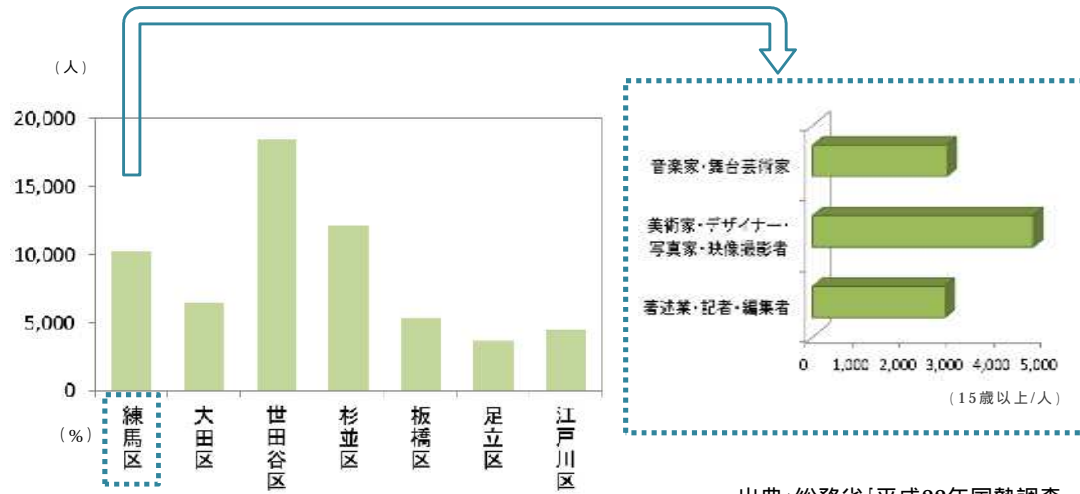
日本大学芸術学部

民



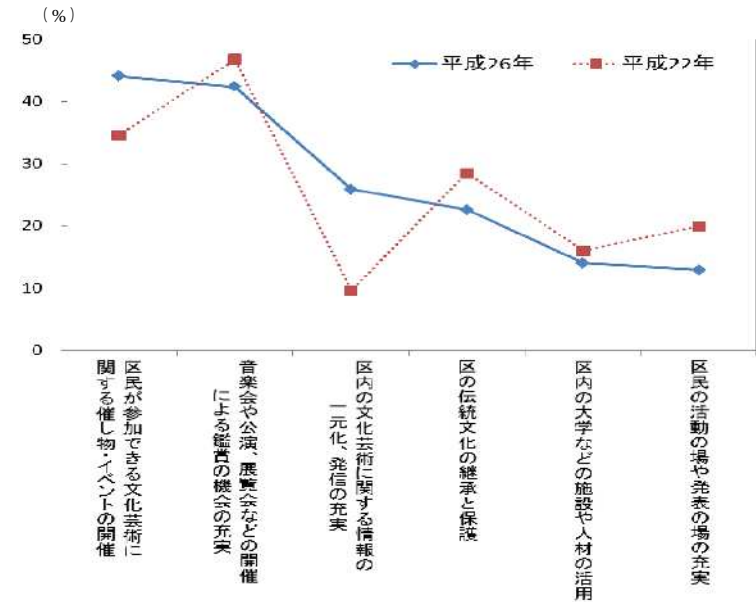
8つの学科からなる芸術総合学部。コースや専攻、学科の枠を超え、作品を合同制作するコラボレーションやすべての学生が履修できる「芸術総合講座」の実施など、独自の教育を実践。

資料2 練馬区の文化芸術関係就業者数（人口50万人以上の特別区）



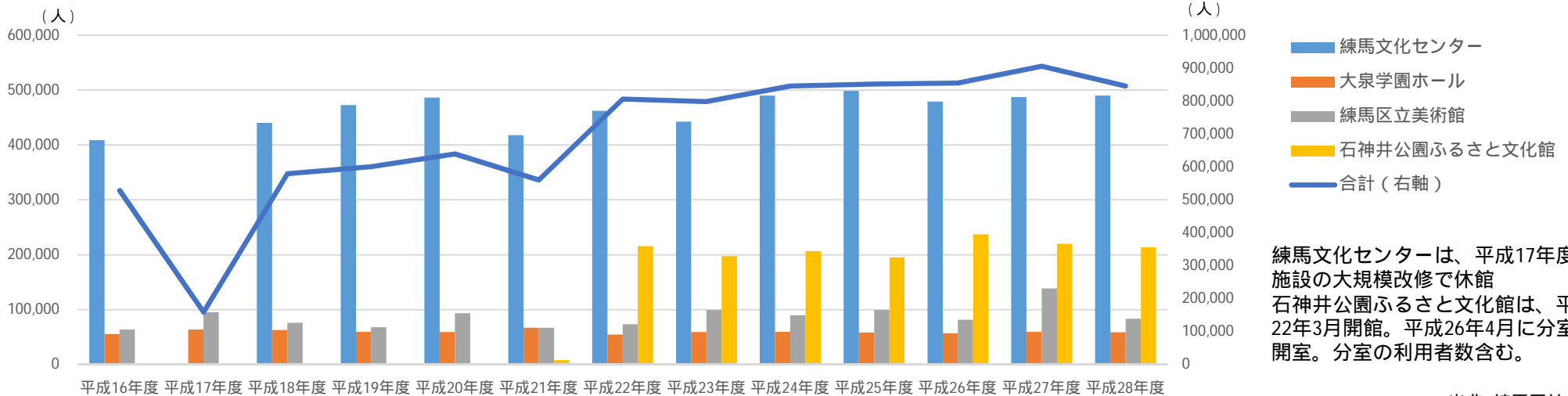
出典：総務省「平成22年国勢調査」

資料3 文化芸術活動に対して必要な支援（複数回答 上位6位）



出典：練馬区「平成22年度区民意識意向調査」、「平成26年度区民意識意向調査」

資料4 区立文化芸術施設利用者数の推移

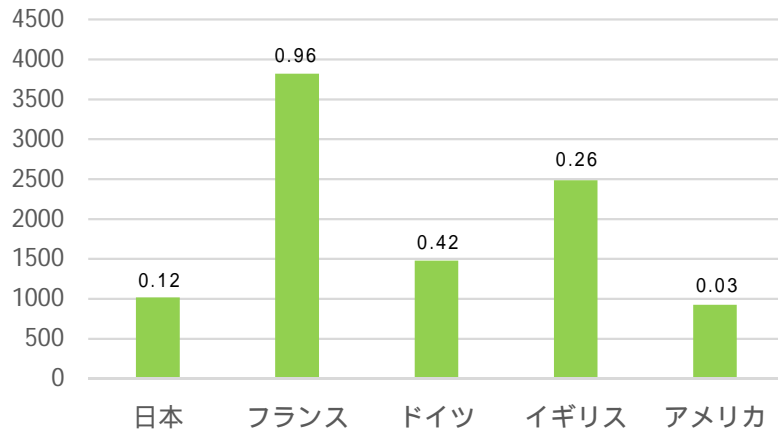


練馬文化センターは、平成17年度は施設の大規模改修で休館
石神井公園ふるさと文化館は、平成22年3月開館。平成26年4月に分室が開室。分室の利用者数含む。

出典：練馬区統計書

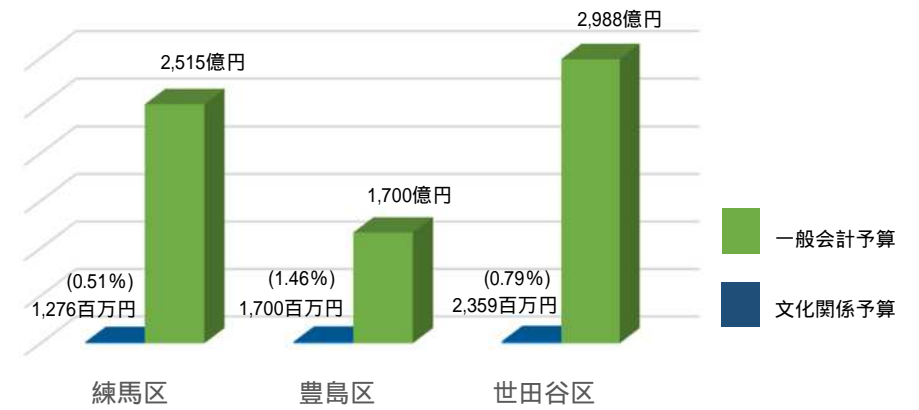
資料5 欧米4か国の文化関連予算との比較(2005年度)

(億円)



グラフ上数字は国家予算に対する割合%
出典:文化庁ホームページより作成

資料6 他区との文化関連予算との比較(平成28年度予算比較)



()内数字は一般会計に占める文化芸術関連予算の割合

出典:各区予算書より文化関連の類似支出を抽出して作成(自治体職員人件費を除く)